

問1. 神戸

日本のジェンダー・ギャップ指数は146か国中118位で、教育は72位、健康は58位で比較的高いのですが、経済参画は120位、政治参画は113位と低くなっています。ちなみに1位はアイスランドで15年間トップです。また、3月8日の国際女性デーに合わせて、「地域からジェンダー平等研究会」が「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」を公表しました。それによると愛知県は政治の順位は23位から16位に上がり、行政も20位から18位にわずかですが上がりました。ところが経済では29位から34位に後退し、「フルタイムの仕事に従事する男女間の賃金格差」は前年比で7千円強広がって9万4千円となり、43位という結果でした。

日本では、賃金が平等ではなく女性が低く、管理職・経営者も女性の比率が低いという現状の中で、管理職・経営者の女性の比率を上げるため、女性の起業家を増やすことも重要だと考えます。

「2023年版中小企業白書」によると起業家に占める女性の割合は、2018年の28.7%から2022年には34.5%まで上がり、特に30代～40代の女性起業家が顕著に伸びているそうです。女性起業家の増加は、経済や社会に多大なメリットをもたらし、多様性に富む視点や柔軟な発想が、イノベーションを促進し、地域や業界の活性化につながることを期待されています。

一方で、経済産業省では、スタートアップの起業家に占める女性の割合は少なく、また女性起業家特有の課題も存在する、として「女性起業家支援パッケージ」を推進しています。

そこでおたずねします。スタートアップ支援拠点であるSTATION Aiにおける女性起業家の状況は、現在どのようになっているでしょうか。

答弁1.(スタートアップ推進課担当課長)

STATION Aiの会員のうち、代表者が女性であるスタートアップの割合は、1月末時点で11.0%です。この状況に対して、県としては、女性起業家の割合を増やしていかなければならないと考えております。

参考に国の状況について、経済産業省が推進している、グローバルに活躍するスタートアップを支援するプログラムである「J-Startup」に選定されている企業の9.2%が女性経営者となっています。

国は「J-Startup」における女性経営者の比率を2033年までに20%以上を

目指すという目標を掲げているため、県としてもこの数字を視野に入れて取り組んでいきたいと考えております。

問2. 神戸

スタートアップの起業家に占める女性の割合が少ないという現状において、昨年オープンした STATION Ai をもっとアピールし利用してもらうことで、女性起業家の背中を押すことになり、女性の活躍する機会が増え、愛知のジェンダー・ギャップ指数を上げることに繋がると思います。

そここでおたずねします。県として「スタートアップ支援の一環として、女性起業家を育成する事業を新たに始める」と2月20日の新聞に掲載されましたが、この事業の目的について教えてください。

答弁2. (スタートアップ推進課担当課長)

県では、STATION Ai を中核として、あいち独自のスタートアップ・エコシステムの形成を目指しています。このエコシステム形成には、より多くの、より多様なスタートアップ関係者が集まり、絶え間なく交流し、相互に刺激し合うことで、新たなビジネスを生み、成長していくことが必要不可欠であると考えております。

このため、女性を始めとしたエコシステムに欠くことのできないプレイヤーの裾野を拡大することが重要であり、多くのプレイヤーが参画することで、STATION Ai を活性化させ、次々にイノベーションが生まれる環境を整えたいと考えており、これが女性起業家育成事業の目的であります。

問3. 神戸

女性が起業を始めようとする時、多くの困難を乗り越えていかなければなりません。金融庁の「スタートアップエコシステムのジェンダーダイバーシティ課題解決に向けた提案」によると、立ち足かかる壁の第一は資金調達における格差です。これは女性が起業する際に BtoB の事業を選択するケースが少ないため、スケールの面で投資家から評価されにくいといった課題があると指摘しています。第二にネットワーク構築の壁です。男性中心のビジネスコミュニティに参入することの難しさ、またロールモデルの不足やノウハウの獲得が困難となっています。

第3はワークライフバランスで、家庭との両立の難しさです。45%の女性起業家が仕事と家庭の両立に困難を感じているというデータもあります。その中で女性起業家を育成していくためには、乗り越えるべき壁が多くあります。経済産業省は、先ほどの答弁にもあったようにJ-Startupにおける女性起業家の割合を2033年までに20%以上を目指し、ロールモデルの創出や女性起業家支援ネットワークの構築、マッチングの場の提供、金融支援を含む「女性起業家支援パッケージ」を推進しています。こうした支援策の整備だけでなく、社会全体の理解や環境整備が進むことで、より多くの女性が起業にチャレンジできると思います。

そこでお尋ねします。新たに始める女性起業家育成事業は、どのような内容を考えているのか伺います。

答弁3. (スタートアップ推進課担当課長)

女性起スタートアップ推進課担当課長業家への投資に積極的な投資家によるワークショップや、起業経験や起業に関する知見を持った専門家によるメンタリングなど、女性起業家に特化した起業支援プログラム、女性が起業に関する悩みや課題を気軽に相談できるコミュニティを作るといった事業を想定しており、今後しっかりと内容を詰めていきたいと考えております。

そして、この事業により支援した女性起業家には、STATION Aiの会員になっていただき、切れ目のない支援を受けてビジネスを成長させていただきたいと考えています。多くの女性起業家がSTATION Aiで活躍してもらうことでSTATION Aiが活性化し、次々にイノベーションが生まれる環境の整備につなげていきたいと考えております。

<要望>神戸

最後に要望いたします。地元で就労支援や地域活動を支援する事業所を立ち上げた女性起業家の方に、これまでの大変さを伺いました。起業時は「資金の調達」が大変で、その後3年間は「従業員の採用と定着」にご苦労されたそうです。顧客確保も大変で起業後の1・2年は大変だったそうで、自分たちの企業の内容が必要な人になかなか伝わらなかった、相談員や市役所の窓口で説明を受けてもわからないまま聞いていたという人も多かったそうです。それでも利用者さんたちのために役立つ人生を生きること、今の仕事をすることが、自分が生きている意味だと思うので頑張っているとおっしゃ

ってみえました。この方もそうですが、女性起業家は利益よりも人の為に、世の中の為に、自分の生きがいとしてという熱い思いの方が優先されているように思います。しかしせっかく始めた事業は継続しなければ意味がありません。先ほどご答弁いただいた育成事業を始めとした支援策が整備され、社会全体の理解や環境整備が進むことで、より多くの女性が起業にチャレンジできるでしょう。

大村知事は「女性の起業家を育てたいというのは STATION Ai の大きな目標の一つ」と言っています。日本一の STATION Ai を大いに利用し、女性起業家の活躍を後押ししていただくことを要望し、質問を終わります。